

(様式6-1)事後評価シート

番号	9	事業名	雪害・防雪事業			市町村名	白馬村			路河川名	(国)148号	箇所名(ふりがな)	白馬駅前(はくばえきまえ)		
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○箇所は、積雪・凍結等から冬期の交通安全確保が重要課題となっており、地元からの要望もあり、昭和62年から平成4年に無散水消雪施設を設置し降雪・凍結対策を行ってきた。</p> <p>しかしながら、設置から十数年経過し、融雪パイプの漏水・腐食・破損、路面状況の劣化等施設の老朽化が顕著になってきており、施設の運用に支障をきたしてきている。</p> <p>そのため、平成20年から平成23年までの3カ年で白馬駅前のL=615m区間において、消雪パイプの敷設替えおよび舗装の打ち替えを実施した。</p>													②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	<p>事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)</p> <p>評価</p> <p>A</p>
	事業目的	<p>○当路線は、北陸地域と関東地域を連絡する経済・物流の動脈で大型車交通の多い主要幹線であるとともに、観光面や生活道路としても重要な道路である。</p> <p>当箇所は、昭和62年から平成4年に設置した無散水消雪施設が、近年大型車両の増加等で劣化が進み、冬期交通及び施設管理に支障をきたしている。</p> <p>そのため、無散水消雪施設を更新することにより、安全で円滑な冬期交通を確保することを目的としている。</p>													③施設の維持管理状況
事業概要	当初工期	H20~H23	費用対効果(当初時)	—	事業費(千円)	財源内訳(千円)						④地域住民等の評価	<p>地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)</p> <p>評価</p> <p>A</p>		
	最終工期	H20~H23	費用対効果(評価時)	—	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源						
	当初計画内容(主な工種)	無散水消雪施設更新工 L=615m W=6.0(16.0)m			300,000	180,000			120,000						
	最終事業実績(主な工種)	無散水消雪施設更新工 L=615m W=6.0(16.0)m			370,997	222,598			148,399						
事業期間の延長、短縮理由と分析	○当初計画どおり実施した。													⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	<p>事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)</p> <p>評価</p> <p>B</p>
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	○当箇所は観光地であること、施工箇所に交差点を含んでいること、また人家連担部と隣接しているため、安全対策に多額の費用を要した。													改善措置の必要性	○当事業での改善措置の必要性はない。
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)										評価	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	<p>無散水消雪施設の定期的な維持管理を実施し、路面の維持管理も定期的に行い、施設の寿命をできる限り延ばすことが必要。</p> <p>○長期にわたる通行止めが必要となるため工事に対する苦情も多い、事前に必要性の周知、事業のPRを行っていく必要がある。</p> <p>○利用頻度の高い箇所については、安心を提供できる。</p> <p>○これまでのアスファルト舗装→コンクリート舗装への変更によりこれまでよりも長寿命化が期待できる。</p>		
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○無散水消雪パイプ等の更新により、施設の寿命が伸び、効率的な融雪効果が図られ、冬期間の安全が確保された。</p> <p>○人家連担地で、通学路及びJR駅前商店街道路のため、消雪施設は交通の円滑化に寄与している。</p> <p>○八方尾根、白馬47、岩岳等の有名スキー場へのアクセス道路で、観光面の利便性を向上している。</p> <p>○交通の安全性向上により、苦情件数が減少した。</p>												B	
	間接的効果(定量的・定性的)	○車道を融雪することにより、除雪した場合に生じる雪の塊が無いことにより、道路上の視界が広がり、国道への出入りに対する交通安全が図られる。													
												部意見	無散水消雪パイプ等を更新することにより、施設の寿命が伸び、効率的な融雪効果が図られ、冬期間安全に通行ができるようになった。また、車道を融雪することにより、除雪した場合に生じる雪の塊が無いことにより、道路上の視界が広がり、国道への出入りに対する交通安全が図られた。無散水消雪施設の定期的な維持管理(消雪パイプの漏水対策等)を実施するとともに、路面の維持管理も定期的に行い、施設の寿命をできる限り延ばすこととする。		
												行政改革課意見	冬期交通の安全確保が図られ、事業の目的を達成している。		